

I. はじめに

2025, 2026 年度 余市高校年間聖句

「どのようなときにも、友を愛すれば 苦難の時の兄弟が生まれる。」

(箴言 17 章 17 節)

新年度募集に向けて、後志圏内の中学校出身、後志圏内に住所を持つ新入生に対し、入学金を免除する制度を立ち上げました。これによる地元からの入学生が増えることを期待しています。26 年度は、この 5 年間で一番人数が多く、13 名の後志出身者となりました。



北星学園余市高等学校
校長 今堀 浩
IMAHORI, Hiroshi

今年度の年度途中転入生の受け入れは、1 年生 4 名、2 年生 3 名の合計 7 名にとどまりました。今回は全て全日制高校からの転入で、昨年までの通信制高校からの転入というケースではありませんでした。特に案内の方法に違いがあるということではありませんが、理由の分析ができれば進めてみたいと考えています。

施設・備品の耐用年数が差し迫っているものや超えているものがいくつもあります。様子を見ながら、更新の計画を立てていますが、更新費用とのバランスをとりながらの計画にならざるを得ません。

・ 2025 年度進捗・達成状況一覧

事業分野		◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策		2	4	0	0	6
教学	教科教育	8	2	0	0	10
	生活指導	3	0	0	0	3
	進路指導	4	0	0	0	4
経営・管理		2	3	0	0	5
財務		4	2	0	0	6
合計		23	11	0	0	34

※達成度 : ◎達成、○達成への進行度 (高)、△達成への進行度 (低)、×中止

Ⅱ. 重点施策

(1)	[教科教育の充実] わかる授業を工夫し、不登校経験者も含め誰でも安心して参加できる授業にします。	達成度	◎
-----	---	-----	---

教科方針や総括を通し、授業内容の点検を行いました。夏と冬の研修会では、具体的単元も扱い、不登校経験者も含め誰でも安心して参加できる授業を拡充しました。

(2)	[HR活動の充実] 「集団づくり教育」に向けた生徒会活動やクラス活動を縮小させないよう、体制を整えます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

HR活動や学校行事を通して生徒の自主性も大切にしました。行事の取組みやクラスの課題に取り組む中で「集団」を意識させました。

(3)	[生徒募集体制と方法の点検] 入試広報の体制と業務を点検し、必要に応じて見直しを図ります。	達成度	○
-----	--	-----	---

入試広報部の業務内容の点検は進んでいますが、具体的な改善にまで至りませんでした。また、担当者の負担を減らす施策を継続していく必要があります。

(4)	[寮下宿の今後の見直し確認] 寮下宿の収容人数維持に向けた取り組みを進めます。	達成度	○
-----	--	-----	---

収容人数維持のため、町内への募集案内の広告や町の広報紙への掲載を行いました。引続き学校寮の仕組みも含めた検討が必要です。



▲下宿での様子

(5)	[働き方の見直し] 教員の勤務体制を点検し、健康を守ります。	達成度	○
-----	-----------------------------------	-----	---

教員の勤務体制に対する意識改革は徐々に改善されています。担任等を担える専任教員の増員が必要な時期になっています。

(6)	[財政の改善] 財政改善に向け点検を行い、改善を図ります。	達成度	○
-----	----------------------------------	-----	---

収支の内訳を点検しましたが、今年度の管理運営補助金と生徒納付金の減少が財政に大きく影響しています。施設整備を最低限で進めるなど、できる範囲の支出減には限界があることを再認識しました。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. グラデュエーション・ポリシーの達成状況を点検・評価し、スクール・ポリシーを改善・見直しを行う体制を構築する。

(1)	項目に対する教員自己評価を年度末に実施します。評価の低い項目については、改善策を検討します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

教員自己評価アンケートを実施しました。なお、著しく評価が低い項目はありませんでした。

2. スクール・ポリシーに基づいた教育を実践するために、外部研修への参加や講師を招いた学習会を開催し、教員のスキルを向上させる。

(2)	外部研修への参加を促します。また教師研修会等に講師を招き、学習会を開催します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

不登校の集い(和歌山)全国のつどいに校長と教員1名が参加しました。教師研修会には性教育の取り扱いを小樽の助産師である澤谷幸希子氏から学びました。薬物学習として麻薬取締官から学びました。

3. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取り組む、自らの世界を広げることができるような授業や行事を計画する。

(3)	教科方針会議で年度の到達目標を教員内で共有します。	達成度	◎
-----	---------------------------	-----	---

教科方針会議でそれぞれの年度のそれぞれの目標を共有しました。また、教員がお互いに授業の見学も行いました。

4. 他者の考え方や価値観に触れることで人間性の成長を図ることができるように、対話による学習の機会を多く設けた授業を展開する。

(4)	対話学習の授業を随時展開し、研修会等を利用し、実践が共有します。	達成度	◎
-----	----------------------------------	-----	---

意見発表やグループ学習などの機会を通して、生徒が対話する場面を作ってきました。冬の研修会で実践した内容等の報告をしてもらい、教員で共有しました。



▲授業の様子

5. 他者と協力する力や課題解決に必要な考え方を体得するために、探究を用いた授業の展開を推進する。

(5)	展開の有無に関わらず、各教科の総括で探究への取り組み(予定含め)の可能性を検討します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

グループごとに課題を調べる授業で、ICTを活用しながら探究の取り組みを展開しました。また、設問に「なぜそう考えるか」「それは事実か」という視点を意識するようにしました。

6. 発表力を身に付けられるように、探求的な学習のほか、弁論や音楽、動画などの媒体を活用した自己表現を行えるような機会を充実させる。

(6)	全校生に活動の報告する機会を設けるなど、他の生徒が関心を持てるような仕組みを整えます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

弁論大会や総合講座発表会、情報の授業、沖縄修学旅行の報告などの機会を設けました。それぞれの取り組みの中で作品化されたものは廊下に掲示しました。

7. 3年間の学校生活を通して、科学的・論理的な思考を深める事ができる授業や諸活動を充実させる。

(7)	教科横断で扱える教材（単元）を設けます。	達成度	◎
-----	----------------------	-----	---

情報と英語科でインドの学生との交流の時間を設け、今後も継続していく予定です。修学旅行事前学習を国語・英語・音楽・社会・情報・平和の科目で行いました。

8. 様々な情報の中から本当に必要なものを正しく科学的な視点を用いて選び取る力を身に付けさせる。

(8)	情報活用のあり方について、総務を中心に方針を立てます。	達成度	○
-----	-----------------------------	-----	---

総務として取り組みを検討することができませんでしたが、ICT 支援員の長野氏による、情報リテラシーの授業を2年生で行うことができました。

9. 総合講座を活用し、社会や地域と繋がりながら学ぶ機会を充実させる。

(9)	町民や近隣町村から、地域の伝統や課題に詳しい人を探し、将来を考え繋がりを作ります。	達成度	◎
-----	---	-----	---

新規の講座として余市町教育委員会の方に担当してもらった講座「博物館のお仕事と余市の歴史」と、余市手話会による「手話」を増やすことができました。



▲総合講座の様子①



▲総合講座の様子②

10. 生徒会執行部を中心とした自主活動を年間計画に組み込み、クラスを中心として取り組む体制を確立する。

(10)	行事における総括の項目を再点検し、翌年以降反映しやすい形に整え、その他の実践例も含め、研究紀要としてまとめる形を追求します。	達成度	○
------	--	-----	---

行事の総括については、生徒会執行部は生徒会通信や生徒総会で点検しました。教員は会議で確認を行っています。研究紀要は出せませんでした。

Ⅱ. 生活指導

1. 複雑化・多様化している事案に対し、指導力強化を目的に複数教員による生活指導体制を確立する。

(1)	相談できる専門家との連携し、指導力強化や生活指導に有効な学びの機会を設けます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

北海道教育大学の教授で、臨床心理士の平野直己先生とつながり連携し、相談や学びの機会を展開しました。2025 年度はオンライン含め5回ケースワーク会議をしました。

2. 自治能力を伴う「集団づくり教育」を理念として浸透させ、それを生活指導においても実践できる体制を構築する。

(2)	行事の総括など教員で確認し、生徒会等を通じ行事や活動の目的や意義を全校生で共有します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

行事の総括では、課題点や生徒の動きで継承したい点を確認するようにしており、特に新しい教員に学び取ってほしい点は意識して扱いました。また、全校生に対しても生徒会を通じて共有しました。

3. 多様性を受入れ関わり合うことで社会性を身につけられるよう、HR活動を中心とした「クラスづくり」を通して実践する。

(3)	学校・クラス・学年（や寮下宿）には様々な経験や価値観をもった人間がいることを知り、それぞれを尊重し、学校が誰にとっても安心できる環境にします。	達成度	◎
-----	---	-----	---

生徒間のトラブルに対する指導は複数の教員で関わるようにしています。生徒同士でも、お互いの違いを受入れ、補い合う意識を育てました。

Ⅲ. 進路指導

1. 進学・就職問わず、選択肢を幅広く持つことができるよう様々な生き方を紹介する機会を充実させる。

(1)	外部の仕組みも活用し、進路の選択肢を増やす機会を積極的に設けます。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

HASSYADAI の焚き火カフェやモンテカルロによる進路選択のまなび等を通算5回実施することができました。



▲進路説明の様子①



▲進路説明の様子②

2. 生徒自らが将来どのように生きていきたいか考え、それに見合った進路選択ができるよう支援体制を強化する。

(2)	進路選択において生徒の適性が生かされる支援や情報提供を学外の仕組みなども活用し、幅広く情報を得られる体制を整えていきます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

日常的な指導だけではなく、特に焚き火カフェでは、進学のみならず就職や海外にも目を向けられるメンターを集めることができました。

3. 進学者に向けた支援を教科内で行うための体制を確立する。

(3)	授業以外の学びを希望する生徒に教材を準備する。例えばオンラインも含めた学習の機会を紹介します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

e-learningシステム「すらら」の活用を複数の授業で活用しています。基礎から大学受験の範囲を網羅していることも含めて、利用の案内をしています。

4. 高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を図りながら学園内進学者を増やす。

(4)	大学進学希望者のうち、北星学園に学部があるものについては積極的に案内をします。余市校の進学状況を中学校などに積極的に案内します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

OC の案内を全学年対象に行っています。参加しやすくするため、希望者の引率も行いました。中学校での案内に、北星大進学を含めるようにしました。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 安定した入学者数を確保するために、1名の専任教員、1名の専任事務を「入試・広報」として配置し、年間計画に基づいて実働にあたることのできる体制を構築する。

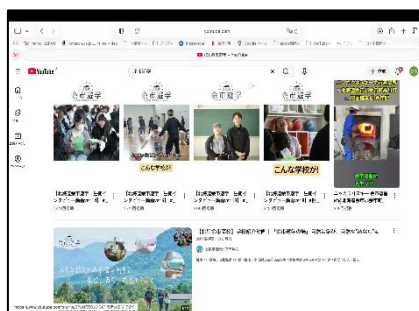
(1)	年間の大きな流れを含めた業務を整理し、入試広報部として確認します。	達成度	○
-----	-----------------------------------	-----	---

事務職員の育児休業に伴う業務負担の偏りを防ぐため、臨時職員を雇用して対応しました。業務内容の総合的な見直しまで着手できていません。

2. 学校見学を通して本校の魅力や雰囲気を知ってもらうために実施体制を見直し、柔軟に見学を受け入れられる体制を構築する。

(2)	相談会来場者や資料請求者に向けた学校見学につながる仕組みを構築します。	達成度	○
-----	-------------------------------------	-----	---

学校の知名度や相談会への参加、学校見学を促すショート動画を作っています。広く認知してもらうための方策を模索中ですが、効果に現れていないところがありました。



▲学校紹介動画

3. WebサイトやSNS、Web広告等を活用した広報のほか、全国での相談会を通した魅力の発信を行い、それらの効果検証を行いながら効率的な広報戦略を立案できる体制を確立する。

(4)	現在委託している業者と年間計画を立て、効率化の検討会議を適宜行います。	達成度	◎
-----	-------------------------------------	-----	---

業者との検討会議は、2ヶ月に1回のペースで開催しています。オンライン相談会の後には反省会も行い、効果を探りながら進めています。アンケートは口頭で行っている状況です。

II. 働き方改革

1. 生徒が町民にお世話になりながら「家庭的雰囲気の中で生活する」環境は教育的効果が高いことから、この体制を継続するための管理体制を確立する。

(1)	既存の寮に対し現状確認と短中期の見通しを確認します。状況によっては新規立ち上げも含めた見通しを立てます。 複雑な問題に対する場合、個々ではなく複数で対応するようにし、安心して働ける環境を作ります。また、残業等の勤務時間の見直しを進めます。	達成度	○
-----	--	-----	---

今後の見通しが厳しくなっているため、新しい仕組みの検討を始める必要があります。また、少人数のホームステイタイプの募集も行い、情報を集めるようにしています。複雑な問題には複数であたっています。残業等の勤務時間は見直しを進めています。

III. 採用計画

1. 将来に向けた人事計画において、教育理念を継承し続けられるよう年齢バランスに考慮した採用計画を立て、運用できるような体制を確立する。

(1)	校務分掌の柱となる考え方について、引継ぎ用のマニュアル作成を始めます。	達成度	◎
-----	-------------------------------------	-----	---

校務分掌の柱となる考え方を共有し、マニュアルを完成させました。今後随時アップデートするように進めています。

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	採用計画による人件費のバランスを見直し、合わせて今後の修理・補修計画を立てます。	達成度	○
-----	--	-----	---

人件費のバランスまでは反映できていませんが、新規採用時には意識するようにしています。今後の補修計画は策定することができました。

2. 学校の理念に合致する実践や活動を積極的に取り入れ、寄付金や補助金を拡充する。

(2)	補助金対象の活動を教員で共有し、実施できるものを増やします。また企業寄付の可能性を追求します。	達成度	○
-----	---	-----	---

教員内での補助金対象の活動の共有は進んでいます。新しい取組みもなるべく取り入れるように考えています。企業寄付は進めることができませんでした。

3. 入学者を安定させるための募集体制と連動させ、適正な入学者数を獲得し、収入を安定させる。

(3)	近隣中学校をはじめ、外部との連携を校長・教頭・入試を中心につながる仕組みを作ります。	達成度	◎
-----	--	-----	---

町内中学校は大幅に繋がれるようになりました。小樽も徐々に深まりつつあります。本州はなかなか訪問できませんが、メール等でつながるようにしています。

4. 将来に向けた人事計画の取組みと連動させ、バランスの良い年齢構成から適正な財政構造に転換し、収支バランスを整える。

(7)	2028年度以降の年齢バランスを視野に採用計画を立てます。	達成度	◎
-----	-------------------------------	-----	---

新規採用時に将来的な年齢バランスを意識できるよう、大まかな採用計画を立てました。

II. 施設・設備

1. 寮下宿のあり方を含めた施設・設備計画を立案し、教育計画や生徒の安全等にも配慮した運営体制を構築する。

(1)	今後の寮の維持に関する見通しを整え、外部の取り組みも参考に、新規寮の可能性を探ります。	達成度	◎
-----	---	-----	---

他校の取組みを参考しながら、新規寮の計画策定に向けて動き出しています。今後は学園とも相談しながら、具体策を検討していきたいです。

2. 施設・校舎の老朽化から起こる補修や機能移転に必要な新しい設備等については、当面精査しながら必要な整備のみを行う方針の下、支出を抑制する。

(2)	修理が必要な箇所や補修しなければならないものを洗い出し、優先順位をつけます。	達成度	◎
-----	--	-----	---

修理が必要な箇所や補修しなければならないものに優先順位をつけ、対応を進めています。突発的なものがあれば、計画の修正などで対応しました。

以 上